



背景と目的

背景

- ●本丸御殿の復元で注目
- ●全国的な歴史ブーム、お城ブーム
- ●リニアを契機とした新たなまちづくりへの期待の高まり
- ●入城者のもてなしの場の不足

都市魅力の一層の向上に向け、本丸御殿の復元を契機に新たな交流やにぎ わいの拠点づくりを行うことで相乗効果を発揮していく

目的

- ■本物志向で自慢のできる、交流やにぎわいの拠点づくり
- ■何度も訪れたくなる、新鮮さのあるおもてなしの拠点づくり
- ■尾張名古屋の歴史や文化の魅力を集めた観光の基点づくり

名古屋城とその周辺地区の位置づけ

名古屋城周辺地区には、名古屋の成り立ちに深く関わる様々な要素が点在しています。これらを名古屋城と の関わりを考慮して大別すると、名古屋城の位置づけは以下のように整理することができます。

「歴史の中で培われた伝統文化」と「新たな都市魅力」をつなぐ結節点

伝統産業の集積地

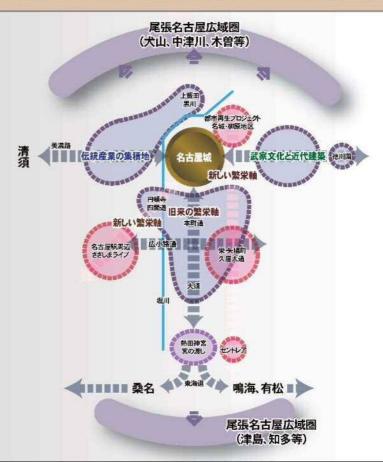
- ○江戸時代より多くの職人達が住む 地域
- ○京都や江戸から、扇子・友禅など が伝播
- ○明治以降、産業技術発展の原点

旧来の繁栄軸 +新しい繁栄軸

- ○東海道と名古屋城を結ぶ本町通
- ○江戸時代から現代まで栄える広小 路通
- ○栄の繁華街、名駅周辺の再開発

武家文化と近代建築

- ○尾張藩家臣の武家屋敷
- ○尾張徳川家の別邸「徳川園」
- ○近代建築が建ち並ぶ「文化のみち」、 町並み保存地区



この構想を推進するにあたっての考え方については、以下の通りです。

" 文化" を結集

名古屋の文化(歴史・生活・産業技術)を 感じることのできる空間づくり

■ 歴史

- ・本物志向による厚み
- ・周辺の歴史資産の保全・活用

■ 生活

- ・江戸時代の暮らしが感じられる場所
- ・名古屋の食文化を体験できる場所

■ 産業技術

- ・匠の技に出会える場所
- ・新しい技術による情報発信

〃 つながり〃 を形成

時代のつながり、人のつながり、 観光資源のつながりを形成

■ 時代のつながり

- ・歴史あるものと新しいものとの融合
- ・世代間の文化の継承

■ 人のつながり

- ・観光客、留学生と市民の交流
- ・市民と市民の出会いの場

■ 観光資源のつながり

- ・市内各施設との回遊性を創出
- ・名古屋圏の情報発信、観光ルートの基点

物語が息づく本物の尾張名古屋を体験できる空間

連携・協働による事業推進

事業の推進にあたっては、市民や企業との連携・協働しながら進めていきます。

計画づくりへの 市民参加

■ ネーミングの公募

世界の金シャチ横丁(仮称)のネーミングを広く市民などから公募するとともに、その経緯を 広く情報発信し、市民の愛着の醸成を進めていきます。

■ 計画づくりからの参加

計画づくりにあたっては、パブリックコメントや市民参加型のシンポジウムなどを通して市民 の声を傾聴し、適切に事業展開に反映させていきます。こうした取り組みを通じ、市民の事業 への理解と関心を深め、より一層の魅力向上に努めます。

事業への市民・ 企業の参加

■ 歴史文化に根ざした活動の場の提供

市民活動グループや個々の市民による歴史文化の保存・継承を図る様々な活動の発表・展示の 場を提供するとともに、適宜専門家によるコーディネートを図るなど、その成果をより効果的 に演出するための支援を行います。

また大学等と連携を図り、インターンシッププログラム活動の場に向けても検討していきます。

■ 観光や人の繋がりを支える交流の場の提供

名古屋との関わりのある地域の伝統芸能や特産品などに関する情報の発信、定期的な地域物産 展の開催など、地域と地域、人と人との交流の場となるような取り組みを進めていきます。 また、外国人観光客のニーズに対応できるコンシェルジュ機能の充実も目指していきます。

■ 季節やイベントにあわせた多様な出店形態の工夫

常設の店舗以外に観光・行楽シーズンや各種イベント開催時にあわせて、事業者や市民グルー プなどが期間限定で出店できるような仕組みづくりを行います。

■ 多目的空間の創出

施設や空間整備にあたっては、特定の目的に特化した恒久的な施設整備を必要最小限に留め、 時代のニーズに応じた多様な利用ができる構造とします。

空間づくりのイメージ

世界の金シャチ横丁(仮称)では、開府以降400年間に培ってきた名古屋の文化(歴史、生活、産業技術)と、それを支えてきた人のつながりや時代のつながりをじっくり「見て」、「知って」、「体感・体験」できる空間づくりを目指します。



尾張名古屋文化の旅の基点



■ 芝居小屋での多目的空間を演出

名古屋の文化として脈々と受け継がれてきた芸能や催しを鑑賞したり、食事をとりながら憩い、くつろげる多目的空間づくりを進めます。



■ 本物の歴史に出会う空間

名古屋の本物の歴史を肌で感じてもらうことのできる展示空間づくりを進めます。また、尾張藩主として名古屋城に居を構えた徳川義直や宗春など藩主たちの生活ぶりを学ぶ空間づくりも展開します。



■ 名古屋の食文化·生活文化を 堪能できる横丁

江戸時代から続く名古屋ならではの「食」を味わい、ものづくり産業の発祥ともなった伝統工芸にふれることのできる名古屋情緒溢れる空間づくりのほか、尾張名古屋圏の情報発信や交流も図られる展開も目指します。

また区域内の史跡を生かし、歴史的深みの ある空間づくりを進めます。



能楽堂周辺の空間活用



■ 能楽堂の南広場

西のゲートとして、既設の加藤清正像、篠島から移設した矢穴石など名古屋城ゆかりの歴史要素を配し、天守閣と能楽堂を背景にした歴史を感じつつ、市民や観光客が憩う空間づくりを進めます。

そこでは四季に応じた軽飲食も楽しむことができます。



四 回遊性のある利用者動線

名古屋城の正門から東門までの間において、「駕籠」や「人力車」など昔ながらの風情のある乗り物を提供し、歴史的風情を壊すことなく、気軽に回遊でき散策を楽しめるよう工夫します。また、電動カートなどの補助移動手段の検討も進めます。



[駕籠(イメ―ジ)]

五

本町通のにぎわいづくり

本町通においては、その時代に名古屋三大祭と呼ばれた東照宮祭などや現在行われている名古屋まつり、春姫道中などと連携を図りながら、山車祭りの復活などによる本町通りのにぎわいの再現に向けての雰囲気づくりを行います。



[春姫道中]

六

周遊機能の充実

名古屋駅や栄から名古屋城をはじめとする市内の観光スポットの周遊に有効な交通手段「メーグル」について、名古屋駅などの拠点駅や繁華街などで広報し、来城者への周知を図ります。また名古屋城を基点とした周遊観光を推進するために、手軽に利用できる交通手段や、堀川を利用した名古屋城への水上アクセスなど、新たな交通手段の整備についても検討するほか、四間道や円頓寺などを回遊し名古屋駅に至る散策道の充実に向けても取り組んでいきます。





[なごや観光ルートバス「メーグル」] [水上アクセス]

弐

東のゲートウェイの演出



■ 地下鉄市役所駅の出入口

東のゲートとなる地下鉄出口周辺では、木戸の設置やお祭り広場での盛り上げイベントなどにより、入城への期待感を盛り上げる空間づくりを進めます。



■ 東駐車場での横丁展開

木戸をくぐり名古屋城入城までの通りでは、現在の駐車場である空間を活用し、屋台や土産物屋が建ち並び、にぎわいのある下町の風情が感じられる横丁づくりを進めます。

七四

四季の小径づくり

■ 名古屋城東側・北側歩道

藤棚を眺め、四季の移り変わりを楽しみながら散 策ができる小径づくりや、名城公園と連携したラ ンナーサポート施設を設けジョギングも楽しめる 環境づくりを進めます。

また、堀に舟を浮かべるなど、日常的には行き着けない水面から名古屋城や桜を愛でることができる観光舟運の導入も検討します。





■ 名古屋城西側道路

名古屋城西側の道路では、市民や観光客にお城を眺めながら快適に歩いて楽しんでいただくため、歩道の緑化や 改良を進めます。

事業の進め方

この構想は、民間事業者の活力を生かしつつ、官民の適切な役割分担のもと、スピード感を持って事業を進めていきます。

■ 官民の適切な役割分担

■ 的確なニーズ把握と スピード感のある整備 ■ 推進していく過程に おいての留意点

民間を事業主体にした展 開

- 経験や知見、発想、活力などを 積極的に活用
- 整備・維持管理運営の効率化に よるコスト縮減

社会実験の実施

- データの収集と計画への反映
- ○本格実施に向けた機運醸成

大規模イベントや博覧会 との連携による効果的な 情報発信

○ 大規模イベントや博覧会の誘致 を進めつつ、これらの開催と連携 した全国への効果的な情報発信

行政による徹底したサポ ート

- 民間活動を促進するための規制 緩和やコーディネート
- 迅速な意思決定を可能にする権 限の集約化

スピード感のある段階的 な整備

- 長期的な視点に立ちつつ実現可 能なところから整備に着手
- 時代の変化に対し柔軟かつスピ ーディな対応

常に変化し続けるシステ ムを構築

○ 店舗や展示内容等について固定 化するのではなく、柔軟に変化 させるシステムの構築を検討

『尾張名古屋文化の旅の基点』など主要事業の展開にあたっては、官民の負担内容を明確にした上で、PF 「方式等の導入を検討するなど、民間事業者の活力を最大限に生かすとともに事業費の縮減にも努めます。 今後事業構造なども含めて詳細な検討を進めてまいります。 なお、事業の経済効果についても十分に検討してまいります。

当面のスケジュール

構想の実現に向けては、以下に示すステップを踏みながら詳細な検討を進めていきます。 当面は、城内や駐車場等を活用して社会実験を実施し、世界の金シャチ横丁(仮称)の実現に向けたニーズ 把握と機運醸成を図ります。

平成24年度

平成25~27年度

平成28年度

本丸御殿第2期

平成29年度以降

名古屋城 関連

世界の金 シャチ横 丁(仮称) 関連

基本構想 の策定 本丸御殿第1期 公開(平成25年)

二之丸庭園等の整備

社会実験の実施

事業構造の検討、事業者の選定、設計・工事

埋蔵文化財発掘調査

基盤整備

世界の金シャチ 横丁(仮称) 開業 (目標)

* 可能なところ から順次

次なる展開の検討



発 行 名古屋城総合事務所 〒460-0031 名古屋市中区本丸1番1号 電話番号 (052)231-1700

> 市民経済局文化観光部観光推進室 〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号 電話番号 (052)972-2425

平成25年4月

この冊子は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

